

会員の広場



吾が輩も猫である

(ふーちゃん、しょーちゃんのその後)

深瀬 拡 (東京)

またまたネコの話で恐縮ですが、古代ローマ軍が英国に進駐した際連れていったネコを先祖に持つ、シルバークレイ色をしたブリテイツシュ・シヨートヘア種のふーちゃんは4歳半になり、相変わらず落ち着いた物腰の女

子大生といった年頃になりました。同じシヨートヘアのしょーちゃんは2歳半の男児。ふーちゃんが仲良く遊ぼうとしょーちゃんに寄り添って行くのだが、飼い主の願いもかなわず、しょーちゃんは縄張り根性丸出し、半グレの少年のように、すぐ喧嘩をふっかける。一般には時間がたつと、仲良くなるケースもあると聞くが、我が家では、ほっておくとすぐ取っ組み合いの喧嘩になり、ふーちゃんは下敷きになって悲鳴をあげる。以来引き離して、必ず一方をケージに入れ、片一方を自由にさせる方式をとって、気をつかっている。

しょーちゃんはやけに喧嘩早いですが、一人でいる時は大人しい。ダッコされるのが大好き。大便もしっかり隠れるまで砂をかける。一方

ふーちゃんは案外芯の強いところがあり、ダッコなど大嫌い。独立独歩、悠然とその辺りを歩く感じ。大便はしょーちゃんと反対で、適当。ネコもそれぞれ個性があるのが面白い。ペットは家族である、は正しい。今年米寿を迎えた小生はよたよたしながらも毎朝寝坊することもかなわず、時間に起きて朝食を与え、懸命に面倒をみる。食後の運動のため遊びにもつきあう。ふーちゃんは安定しているが、しょーちゃんはたまにエサを残す。どうしたんだ？と体調を心配する。男の子は育てるのが大変、と嘆いていたお袋の昔のぼやきが頭をよぎる。

吾が輩も8歳の大台にのってからメッキリ体力に自信をなくし、歩く速度が急激に落ち

てきた。主治医に聞くと加齢による筋肉の衰えとの予想通りのご宣託。今年米寿を迎えたが終活などやりようもない。なるようにしかならない、のである。それはいつやめるかにつながる。車はいつ運転をやめるか。いつ財産分与するか(ないものはないが)。それぞれにそれなりの対処があるが、真剣に考えれば考えるほど袋小路に入る。将棋で云えば詰んでしまえば終わりである。人生の終わりもさみしいから、出来る限り生を全うしたい。とあったって、何かうまいものを食べるくらいしか残っていない。おやじはマロー庵とよく言っていたが、その意は「まあどうにかなるろう庵」だそうだ。70年も昔の言葉が浮かぶ今日この頃なのである。